

JAにうわの取組みについて

(1) JAにうわの概要

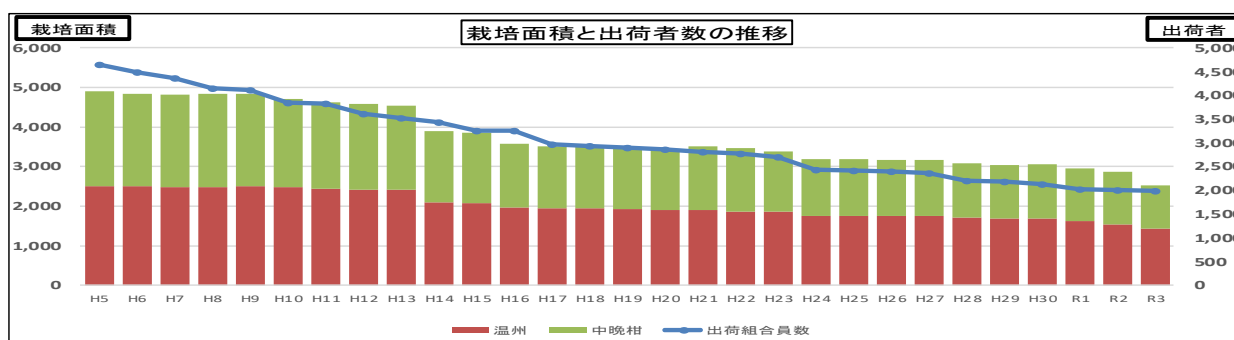
愛媛県西南部に位置し、八幡浜市、伊方町、西予市三瓶町を管内として、温州みかんを中心とした柑橘栽培に特化したJAです。管内 10 選果部会があり共販活動を行っている。

(2) JAにうわの現状

① 栽培面積と出荷者数の推移

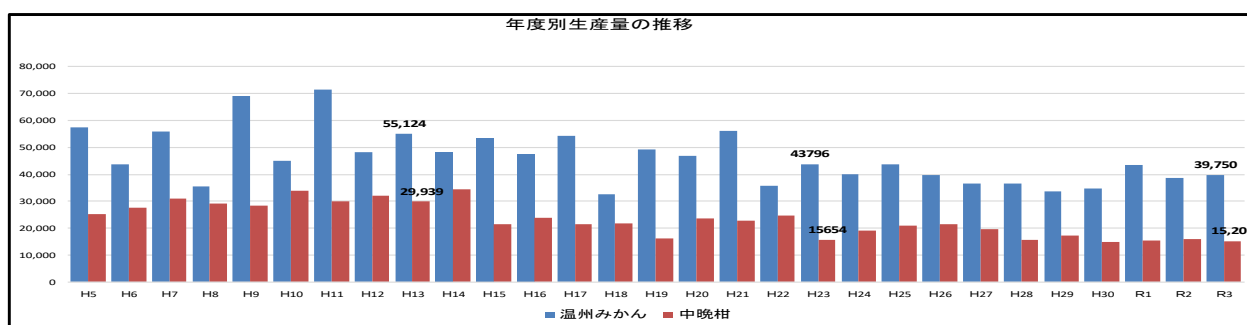
令和 3 年度の出荷者数は 1,987 名 温州みかんの栽培面積 1,430ha 中晩柑 1,088ha
高齢化等による出荷者の減少や栽培面積の減少が進んでいるのが現状。

・農地の維持、生産量の確保のためには、親元就農だけでなく、外部からの新規参入の就農者を受け入れる体制整備が必要となっている。



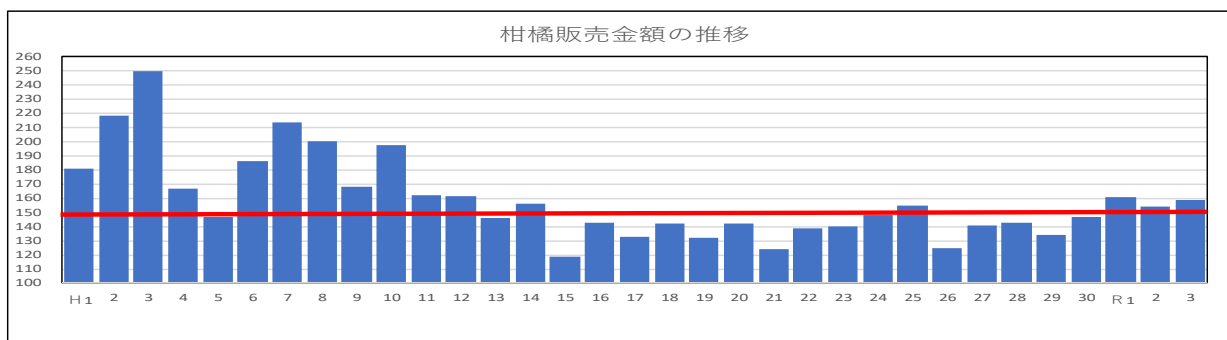
② 生産量の推移

生産量も減少傾向にあるが、ここ数年は温州みかん 40,000t 中晩柑 15,000tの生産量が平年の生産量となっている。地域の人口減少と高齢化により近隣の収穫労働力不足により県外の短期雇用者の受入は増加傾向にある。



③ 柑橘販売金額の推移

ここ数年は、柑橘販売金額は、150 億円を超えており、出荷者数の減少を考慮すると 1 農家当たりの所得は増加している。同様に一農家当たりの栽培面積、生産量も増加している。



(3) 労働力確保と担い手確保育成の取り組み

① 労働力確保の取り組み

平成 6 年に真穴地区で雇用促進協議会を立ち上げ短期雇用者の受入れとみかんのファンを増やすため県外短期雇用者の受入を始め、平成 27 年に廃校となった小学校を宿泊施設として改修したのを契機に他地区でも雇用促進協議会を立ち上げ短期雇用者の受入を行っている。

受入に際しては、市町からの宿泊費の補助、コロナ検査補助、宿舍改修補助等をして頂いて受入体制を整えている。

温州みかんを中心とした収穫アルバイトを全国から募集し令和3年度 579 名の受入を行っている。

サイト等への掲載募集の他お互いの繁忙期が異なる北海道、沖縄のJAと、JAにしうわで産地間連携を行いお互いが受入を行っている短期雇用者への募集活動を行っている。

例年 40%程度の方がリピーターとして継続参加して頂いている。

② 担い手確保育成の取り組み

令和 4 年12月末時点で、10 名が研修を行っている。

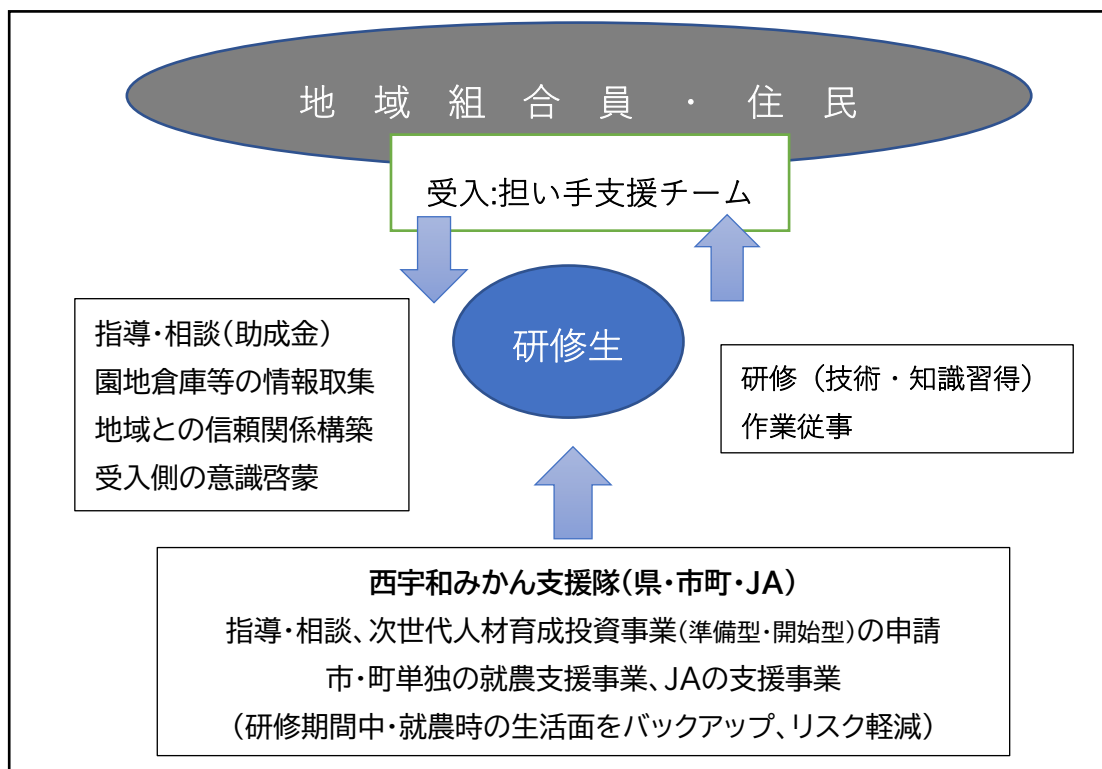
平成 27 年より研修生の受入を開始し、令和 4 年12月時までに 34 名の研修生を受入、20 名が現在就農している。また 令和 5 年 3 月までに 3 名が就農する予定。

中でもみかん収穫アルバイトから研修生となった方が 12 名、募集活動から農業体験、収穫アルバイトを経験して研修生となった方が 11 名となっている。

収穫アルバイトを経験した方は、地域への馴染みもあり受入の際にはスムーズな受入が行える事例が多い。

③ 研修生の支援体制 ⇒ 【チームでの支援体制】

各地域の担い手支援チームで受入を行い、日々の研修を通じて地域の方とのコミュニケーションを深めながら、将来その地域で定着する事を目指している。週一回JAで研修を実施している(JA 研修園での研修、座学研修、税務研修、事業申請等)



④ JA研修園の役割

JA農業経営事業の中で、現在、203aの柑橘園の管理を行っている。毎週一回研修園での集合研修を実施している。研修園は研修生が就農時に引き継ぐ園地を主に管理し中間管理的な役割を担っている。

(4) 研修生の受入に際して

就農希望の相談がある場合は、就農したい地区の確認、また、その地区で受入が可能かどうか、具体的には農地の空き状況、倉庫確保の可否等就農する目途が立った時点で受入を行っている。

(5) 現状の課題

- ① 農家から貸与のある園地は条件の悪い園地や生産性の低い園地が多いため、すぐに営農を開始するには不利な条件のケースがある。
- ② 柑橘を定植しても十分な収量が採れるまでに7～8年要するなど、経営の安定化に時間が要する。
- ③ 園地以上に倉庫の確保が難しい事例が多い。

(6) 今後の取組

- ① 農地、倉庫の情報確保 農家への意向調査の実施
- ② 第三者継承(直接経営継承)の推進
- ③ 産地維持のための生産者の意識改革

おわりに、、、

就農希望、研修制度に対する問い合わせは多くあるが、現状研修を希望されているがキャンセル待ちの方もあり、産地側での受け入れ態勢(生産性の高い園地確保、倉庫、機械器具等の確保)を整える事が重要で、新規就農者の農業経営を早く軌道に乗せる事ができるよう事業展開していきたい。